

## 『大原社会問題研究所雑誌』 2024 年度総目次

- (1) 2009～2023 年度の総目次については各翌年度 4 月号を参照されたい。
- (2) 『資料室報』第 1 号～『大原社会問題研究所雑誌』第 599・600 号までの総目次については、2008 年 10・11 月号 (No.599・600) を参照されたい。
- (3) なお、大原社会問題研究所 Web サイト (<http://oisr-org.ws.hosei.ac.jp/oz/>) でも、バックナンバー総目次を掲載している。さらに、1997 年 4 月号以降については、雑誌本体のオンライン・ジャーナル化、Web 上での公開を行っている。

### 2024 年 4 月号 No.786

<b>【特集】第 36 回国際労働問題シンポジウム 循環型経済におけるディーセント・ワーク ——公正な移行に向けて</b>	
特集にあたって	藤原千沙
2023 年第 111 回 ILO 総会について 政府の立場から	先崎 誠
労働者の立場から	鈴木人司
使用者の立場から	長澤恵美子
自動車産業を事例とする問題提起 EV シフトの実態と影響	喜多川 進
産業構造の視点から	植田浩史
ディスカッション	
<b>■書評と紹介</b>	
Todd E. Vachon, <i>Clean Air and Good Jobs : U.S. Labor and the Struggle for Climate Justice</i>	鈴木 玲
加藤旭人著『障害者と健常者の関係形成の社会学』	深田耕一郎
園田薫著『外国人雇用の産業社会学』	福岡美佐子
グスタフ・カッセル著／石原俊時訳『社会政策』	江里口 拓
新所長あいさつ	榎 一江
社会・労働関係文献月録	
『大原社会問題研究所雑誌』2023 年度総目次	
所報	2023 年 12 月

### 2024 年 5 月号 No.787

<b>【特集】生活保護行政における公的統計</b>	
特集にあたって	岩永理恵
生活保護行政における公的統計の歴史 ——被保護者調査を史資料として利用する可能性と課題	岩永理恵
統計でみた生活保護受給者の特徴——被保護者調査を用いて	大津 唯
被保護世帯はどのように構成されているか——被保護者調査を用いた分析	渡辺久里子
生活保護の行政記録と政府統計	藤原千沙・湯澤直美
<b>■書評と紹介</b>	
小松史朗著『日本の生産システムにおける労働と管理』	浅野和也
社会・労働関係文献月録	

月例研究会 日教組・文部省和解の成功要因を考える ——「政策の窓」モデルの「合流」と政策起業家への着目	早川純貴
所報	2024年1月

## 2024年6月号 No.788

<b>【特集】世界のベーシックインカム運動の現状と課題——カナダと台湾</b>	
特集にあたって	岡野内 正
カナダにおけるベーシックインカム運動の歴史と現状 ——コロナ禍以降の最近の議論と動向を中心に	田中俊弘
新自由主義の誘惑にどう抗するか ——台湾におけるベーシックインカム諸動向の初歩的検討	本田親史
<b>■資料紹介</b>	
片山潜の未刊原稿「在露三年」について	大田英昭
<b>■書評と紹介</b>	
工藤章著『ドイツ資本主義と東アジア 1914-1945』	伊東林蔵
宮田惟史著『マルクスの経済理論——MEGA版『資本論』の可能性』	土井日出夫
梅崎修・南雲智映・島西智輝著 『日本の雇用システムをつくる 1945-1995——オーラルヒストリーによる接近』	上田眞士
社会・労働関係文献月録	
所報	2024年2月

## 2024年7月号 No.789

<b>【特集】女性管理職の増加をめぐる動向と課題</b>	
特集にあたって	金井 郁
ドイツにおける女性トップマネジャーの拡大	田中洋子
生命保険営業現場における管理職のマネジメント ——ジェンダー関係とキャリアの違いに着目して	金井 郁
地方自治体における女性管理職登用の実態と先進自治体の取組 ——地方公務員のキャリア分析	清山 玲
<b>■書評と紹介</b>	
熊沢誠著『イギリス炭鉱ストライキの群像』	今野晴貴
広田照幸編『歴史としての日教組 上・下巻』	仁平典宏
前浦穂高著『コロナ禍の教訓をいかに生かすか』	村田隆史
加藤祐介著『皇室財政の研究』	木下 順
社会・労働関係文献月録	
月例研究会 社会調査の目的・方法と社会運動——コロナ禍における母子世帯調査を例に	藤原千沙
所報	2024年3月

## 2024年8月号 No.790

<b>【特集】生活困窮者支援と生活保護の見直し</b>	
特集にあたって	布川日佐史

生活困窮者支援制度と生活保護制度の見直し	布川日佐史
生活困窮者自立支援制度に求められる役割と課題について ——自立相談支援機関における経済的困窮者への支援に焦点を当てて	仲野浩司郎
若者の貧困と生活保護再考 ——生活保護と若者支援の切断、家族からの逃走、生活保護をめぐる闘争	渡辺寛人
外国籍者の貧困と生存権保障	大澤優真
<b>■書評と紹介</b>	
佐藤忍著『日本の外国人労働者受け入れ政策』	小井土彰宏
嶋崎尚子・西城戸誠・長谷山隆博編著『芦別——炭鉱〈ヤマ〉とマチの社会史』	市原 博
社会・労働関係文献月録	
月例研究会 男子普選期における女性の政治参加に関する一考察	井上直子
所報	2024年4月

2024年9・10月号 No.791・792

<b>【特集】世界のベーシックインカム運動の現状と課題——アイルランド、ブラジル、イラン、トルコ</b>	
特集にあたって	岡野内 正
アイルランドにおけるUBI構想を取り巻く政治情勢と課題	南野泰義
ブラジルにおけるベーシックインカムと住宅・土地問題との連続性	山崎圭一
イランにおけるUBI構想の導入と失敗 ——その政治経済学的な背景と社会運動との関係性	ケイワン・アブドリ
トルコの社会保障政策の変遷と課題 ——限定的なベーシックインカムを基軸としての再検討	今井宏平

<b>■資料紹介</b>	
グローバル労働史の展開	マルセル・ファン・デア・リンデン／木下順訳

<b>■講演</b>	
困窮外国人支援の現在——難民・仮放免状態にある人を中心に	大澤優真

<b>■書評と紹介</b>	
湯澤規子著『焼き芋とドーナツ——日米シスターフード交流秘史』	佐藤千登勢
武田晴人著『日本経済の発展と財閥本社』	大石直樹
兼子論著『市民社会の文化社会学』	鈴木宗徳
龍井葉二著『猪俣津南雄——戦略的思考の復権』	中根康裕
法政大学大原社会問題研究所 2023年度の歩み	
社会・労働関係文献月録	
月例研究会 『無産政党の命運』を読む	立本紘之
所報	2024年5・6月

2024年11月号 No.793

<b>【特集】継続する福島複合災害——原発事故被害の現在</b>	
特集にあたって	鈴木宗徳
被害回復に向けた賠償・復興政策の問い直し ——「闘争」と「継承」の両側面から長期的復興課題を考える	除本理史
ふるさとの「復興」とは何か——避難を終えてなお残る被害に抗う	関 礼子

福島原発事故からの復興をめぐる長期的課題と不可視化	藤川 賢
原発事故被害の継承と権利回復をめぐる課題 ——事故当時子どもであった世代を対象とした調査結果の分析	清水奈名子
<b>■論文</b>	
外部労働市場規制緩和と労働組合——日経連批判言説の再考	本田恒平
<b>■書評と紹介</b>	
松尾隆佑著『3・11の政治理論』	鈴木宗徳
田中拓道著『福祉国家の基礎理論』	近藤康史
社会・労働関係文献月録	
月例研究会 ポスト戦争体験時代のアルヴァックス	武内 保
所報	2024年7月

## 2024年12月号 No.794

<b>【特集】世界のベーシックインカム運動の現状と課題——韓国</b>	
特集にあたって	岡野内 正
韓国のベーシックインカム運動——回顧と展望	安孝祥／影本剛 訳
韓国におけるベーシックインカム運動	朴峻喜
<b>■論文</b>	
ドイツの「想起の文化」と移民統合——ユダヤ人・イスラエルとムスリム移民	昔農英明
<b>■書評と紹介</b>	
林采成著『健康朝鮮』	松本武祝
今井小の実著『福祉国家の源流をたどる』	富江直子
山本咲子著『女性非正規雇用者の生活の質評価』	村上慎司
<b>■書評への応答</b>	
拙著『マルクスの経済理論——MEGA版『資本論』の可能性』に対する土井日出夫氏の書評へのリプライ	宮田惟史
社会・労働関係文献月録	
月例研究会 『職務重視型能力主義——三菱電機における生成・展開・変容』（日本評論社）について	鈴木 誠
所報	2024年8月

## 2025年1月号 No.795

<b>【特集】民間に保存された公的文書——「1970年代東京都公害問題対策資料」から考える</b>	
特集にあたって	山本唯人
「1970年代東京都公害問題対策資料」の概要と公開の意義 ——資料整理担当者の立場から	宇野淳子
船橋社会学理論の背景としての東京都公害問題対策資料 ——“duality”の契機に着目して	大門信也
<b>■論文</b>	
環境正義論の放射性廃棄物管理政策への応用 ——参加・分配的正義から導かれるポスト熟議民主主義時代の批判的考察	小野 一
<b>■書評と紹介</b>	
高橋靖幸著『児童虐待の歴史社会学』	今井小の実

小山静子著『高等女学校と女性の近代』	木村涼子
谷本雅之著『在来的発展と大都市』	菅山真次
森千賀子著『ブルックリン化する世界』	南 修平
社会・労働関係文献月録	
月例研究会 ジョゼフ・チェンバレンの社会政策構想と政策思想——老齡年金案と関税改革構想	杉山遼太郎
所報	2024年9月

## 2025年2月号 No.796

<b>【特集】戦後日本の労働者像</b>	
特集にあたって	榎 一江
「サラリーマン諸君」の群像 ——1950年代から60年代にかけての「労働者像」に関する考察試論	鈴木貴宇
サラリーマン、主婦、そして会社——日本におけるホワイトカラー労働者像の変容 新たな視点の提案——ゴードン W. ブラング文庫の所蔵資料を通じて	清水 剛 ジェンキンス加奈
<b>■書評と紹介</b>	
鈴木誠著『職務重視型能力主義』	禹宗杭
Bastiaan van Apeldoorn, Jaša Veselinović and Naná de Graaff, <i>Trump and the Remaking of American Grand Strategy</i>	高瀬久直
安藤加菜子著『在宅育児手当の意義とあり方』	角 能
BAE JUNSUB 著『韓国型福祉レジームの形成過程分析』	金成垣
社会・労働関係文献月録	
月例研究会 植民地期朝鮮における林野政策と火田民	鄭歎歌
所報	2024年10月

## 2025年3月号 No.797

<b>【特集】平塚らいてう関係資料</b>	
特集にあたって	榎 一江
現代個人アーカイブズの整理・公開方法に関する一試論 ——平塚らいてう関係資料の場合	堀内暢行
「平塚定二郎聞き書き」について	北口由望
女中を通して見出された女工労働環境問題	差波亜紀子
「我等の家」での消費組合運動と平塚らいてう——平塚らいてう関係資料を用いて	井上直子
<b>■書評と紹介</b>	
新藤雄介著『読書装置と知のメディア史——近代の書物をめぐる実践』	町田祐一
山田信行著『日本の労使関係と「モラル・エコノミー」』	磯谷明德
原田悠希著『社会保障制度における社会手当の成立・展開過程』	北 明美
除本理史・河北新報社編『福島「オルタナ伝承館」ガイド』	鈴木宗徳
社会・労働関係文献月録	
月例研究会 現代家族の働き方・生活の現状と少子化・子育て政策の課題	蓑輪明子
所報	2024年11月